

# 一般廃棄物処理施設における周辺環境整備

## 目的

日常生活や事業活動に伴って、排出される廃棄物は、「廃棄物処理法」に基づき、適切に処理する必要があります。適切な処理を行うためには、一般廃棄物処理施設が必要となります。

一般廃棄物処理施設には、臭い・汚い・危険等のイメージがあり、自然環境や生活環境への影響が懸念されています。そこで、一般廃棄物処理施設の建設にあたっては、十分な適地選定を行うのはもちろんのこと、工事中や供用後についても、それぞれの地域にあった環境への配慮を行い、地域の方々に受け入れられる必要があります。

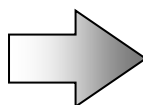
計画地周辺の環境に配慮するだけでなく、周辺環境等も踏まえ決定する“コンセプト”を基に整備方針を決定し、一般廃棄物処理施設建設を行うための、周辺環境整備計画及び実施設計を行う事が重要になります。

## 内容

周辺環境に配慮一般廃棄物処理施設建設を行うためには、以下を実施する必要があります。

### ◇ 周辺環境整備計画

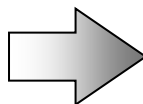
- ◆ 周辺状況、上位計画の整理
- ◆ コンセプトの策定
- ◆ 整備方針の決定



実施設計の基礎資料とします。

### ◇ 実施設計

- ◆ 整備方針を踏まえた設計



発注資料を作成します。

## 技術ポイント

### 1. 計画条件の整理

一般廃棄物処理施設のコンセプトを決定するために、周辺状況や上位計画を整理します。

#### ◇ 周辺状況

計画地の位置、地形の特色、公共施設等から地域としての役割を整理します。ここでは、計画地特有の文化施設等についても着目します。

#### ◇ 計画地の状況

現地調査や環境影響評価書などの既存資料により、計画地の状況を把握します。

#### ◇ 上位計画

各々の自治体が定めたマスタープランや関連業務成果等から施設の位置付けを整理します。

### 2. コンセプトの策定

計画地の地域特色や、求められる機能（ハード）、役割（ソフト）を踏まえ、一般廃棄物処理施設のコンセプトを策定します。コンセプトの策定は事業の核となる重要なプロセスであるため、場合によっては有識者の意見等も参考にします。

### 3. 整備方針の決定

コンセプトを踏まえ、各施設における具体的な整備方針を決定していきます。整備方針の決定においては、施設毎に求められる機能とコンセプトを受けての役割を明確にした上で、機能と役割のどちらを重視すべきかを決定していきます。



ここでは、施設についての整備方針だけではなく、工事で発生する材についても方針を決定しておく。

例) 土工事において岩砕が発生する場合 → ①盛土材の一部として使用する。

②修景用の岩組材料として使用する。

伐木材が発生する場合 → ①チップ化し植栽のマルチング材として使用する。

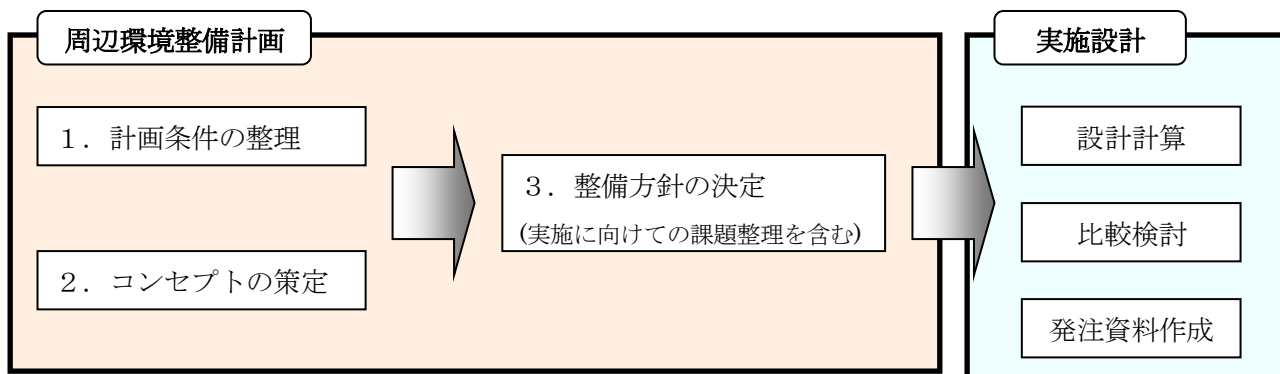
また、植生や動物との共存などの専門的な分野については有識者の意見を取り入れ、整備方針を策定します。

※実施設計に向けての課題を整理しておくことにより、実施設計時に何が問題で何を決定すれば良いかが明確になり、実施設計がスムーズに行えます。

### 4. 実施設計

整備方針や実施設計に向けての課題を踏まえ、比較検討や設計計算等により、規模や仕様を決定していきます。その後、図面等の発注資料を作成します。

## 事業の流れ〔当社の実施範囲〕



## 当社実績

- ・ 新一般廃棄物中間処理施設に伴う造成設計（岡崎市）
- ・ 新一般廃棄物中間処理施設建設に伴う地質調査及び周辺環境整備基本計画（岡崎市）

玉野総合コンサルタント株式会社

お問い合わせ先： 事業企画部 (TEL. 052-979-3960 / FAX. 052-979-3970)